

おわりに

本研究は、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のために、幼稚園、小・中学校の教師に対して、そして、今後の共生社会の担い手となる子どもたちに対して、インクルーシブ教育システムの理念について理解啓発を行うための方策を検討し、提案することを目指した。言うまでもなく、参画した10県市の教育委員会は、研究の開始から終了までコロナ禍の中にあり、「研究どころではない」毎日であったはずである。にもかかわらず各県市の研究は中止されることなく進められ、本報告書にあるようにそれぞれの課題解決につながる成果を得ることができた。これは、各県市教育委員会が、新型コロナ対策という目の前の大きな課題への対応をすることだけに止まらず、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築という10年後、20年後の社会に向けた歩みを止めてはならないという高い見識があったからに他ならない。また、各県市教育委員会の研究成果は「コロナ禍であるからここまでしかできなかった」というものではなかった。むしろ、「コロナ禍にあってもここまでできた」と言うべき内容であり、地域への強い発信力があるものであった。さらに、当該の地域だけではなく、全国の同様の課題を有する教育委員会の参考になるものばかりであった。

全国に1,800近くある都道府県や市区町村は、どれ1つ同じものはない。したがって、他の自治体の好事例を、単純に模倣するだけではうまく機能しないのは言うまでもない。その意味では、本研究の成果もそのままでは活用できないかもしれない。しかし、参画した教育委員会の課題設定の在り方、解決の過程、目指す教育の姿など、本研究を構成するそれぞれの研究から、各自治体にとって参考になることが多いと思われる。

インクルーシブ教育システムが子ども一人一人に応じることを基本とするように、1つ1つの自治体の実態や課題にあった取組が有るはずである。本研究の10県市の教育委員会の取組を参考にいただき、全国の自治体が、それぞれにあったインクルーシブ教育システムの構築に、引き続き取り組んでいただけることを期待しつつ、本研究成果報告書を送り出したいと思う。

<謝辞>

本研究をまとめるに当たり、指定研究協力地域、研究協力者、研究協力機関の方々をはじめ、多くの皆様のご協力をいただきました。ここに感謝申し上げます。

長期派遣型地域実践研究員の橋本政孝さん、阿部央憲さん、村松泉さんとは、研究所で1年間ともに学ばせていただきました。本研究の開始と時を同じくして緊急事態宣言が発表されました。そのまま6月までの2か月間はリモートで連絡を取り合いながらの研究となってしまいました。地域の課題を背負ってスタートダッシュをしたい時期に大変な状況に遭ってしまい、言葉にできない苦労がたくさんあったと想像します。しかし、そんな時

でも、みなさんは、常に前向きな地域の課題や研究への期待を熱く語って下さいました。せつかく教育現場から送り出してもらっているから、現場の先生方の役に立つ研究をしたいという思いにあふれていました。研究所の研究チームは、そんなみなさんからたくさんのことを学びました。

短期派遣型地域実践研究員の松井泰子さん、和田智恵さん、雉島邦彦さん、高野久美子さん、西内一裕さん、鈴木美保さん、遠周幸代さん、西小路真智子さんは、市の教育委員会の指導主事として教育行政の立場でただでさえ忙しいのに加え、新型コロナ対策の最前線に居たことと想像します。そのような中、短期間で地域に役立つ研究をまとめてくださいました。実施回数が限られてしまった研究推進プログラムでの皆さんの積極的な姿勢と、お互いの良さを学び合う姿に感銘を受けていました。

研究協力者の西館有沙さんには、障害理解教育に関する研究のエキスパートとして、貴重な情報提供とご講演をいただきました。また、青山新吾さんには、通常の学級の教育において個にこだわるとはどういうことかについて具体的で示唆に富むご講演をいただきました。加藤典子さんと深草瑞世さんには、国が目指す教育の在り方や考え方について、丁寧にご指導いただき、研究を導いていただきました。

調布市立飛田給小学校の山中ともえ校長先生をはじめ教職員の皆様には、コロナ禍の中でも学校訪問と授業参観をお許しいただき、得がたい実践知をいただくことができました。入間市、春日部市、袋井市の教育委員会の皆様には、教育現場との調整を丁寧にしていただくとともに、地域実践研究員に対するあたたかいご支援をいただきました。

そして、いつも前向きに研究に取り組み、研究代表者を支えて下さった本研究所の研究チームの皆さんにも敬意を表したいと思います。

皆様、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

研究代表者

インクルーシブ教育システム推進センター

上席総括研究員 久保山 茂樹